

茗溪学園中学校高等学校

Study Skills を身につけさせる教育 その 14 美術で身につける表現力 (2)

教務部長 田代 淳一

Study Skills のうちの重要な Skill のひとつに表現力があります。自分が考え感じたことを様々な方法を用いて表現し伝達していく技能ですが、その中には芸術を通じて高めていくプロセスも必要です。

茗溪学園では、芸術活動を通じて表現方法を身に付け、それが芸術以外の分野にも転化していく過程を重視しています。今回は、芸術のうち特に高校の美術科で実施している指導を紹介します。

高校の美術カリキュラム

高校1年

高校1年生になると技法・意識ともに1段階レベルアップさせます。題材は「日本画」。多分日本の高校で必修授業で日本画を取り入れている学校は本校だけだと思います。さて、ここまでの絵画手法は三次元の現実空間を二次元の面・枠の中にどう表現するかということでした。しかし日本画では単なる空間表現ではなく、余白・装飾性・構成の面白さを追及していかななくてはなりません。また、日本画独特の顔料

や箔が生徒たちの意識を大きく変えます。今までは「絵の具」はチューブに入っていて買ってくるものと思っていたところから、日本画では必要な顔料をひとつひとつ膠（にかわ）を加えて練ることから始めます。練りながら生徒は色の表現の意味、素材、そもそも絵とは何かを考えます。画題は「ゆりの花」ですが、花を写生してそのまま描くのではなく、画面上に構成するときに背景も含めて配置し直します。目の前の観察の再現ではなく、自己表現を入れていきます。余白の形はこれでいいのか、花の配置のバランスなど画面を自由に使うという奥行きのある高度な Skill が要求されるのです。高校1年では他に、「パッケージデザインの構成」アクリル、メゾチント「小物」（凹版）、塑像では「手」を使って感情を表現します。

高校2年

必修最後の高校2年生では、「自己表現」を大主題として1年間かけて制作に取り組みます。絵画ではいきなり大きいものを描けと言っても無理なので、まずは10号キャンパスで「自分を描く」という課題に取り組みます。これは、自分の原点、小さかったころの自分の写真や好きだったもの、思い出に残っているものを構成して10号の中に表現します。目の前にある対象物を画面に入れていくことと違って、自分自身を見つめ直し、何をどう構成していくのか、本格的な自己表現となります。この課題に6月末まで取り組みます。その後いよいよ卒業制作です。題材は「自己表現」、つまり完全に自由です。大きさは最小で40号（B1パネル）。これを数枚組み合わせても構いません。9月に描き始めて、完成は3月になります。石彫でも同課題で卒業制作に取り組みます。石像が石畳を制作します。茗溪学園の校内にはこれら先輩たちの卒業制作や、授業での1年生からの作品が所狭しと展示してあります。常設と比較的長く（数ヶ月）展示する作品、2週間で入れ替える作品とありますが、生徒たちは入学してから卒業するまで常に新しいハイレベル



写真-1